

鳥取縣公報

號 外
昭 和 十 四 年 三 月 二 十 七 日
月 曜 日

告 示

◇鳥取縣告示第百八十七號

昭和十四年二月三日鳥取縣告示第七十六號ヲ以テ設定セル鳥取縣臨時配合肥料十四號中第一號、第二號、第三號及第五號ノ四種ヲ左ノ通變更ス

昭和十四年三月二十七日

鳥取縣知事 副 見 喬 雄

鳥取縣臨時配合肥料第一號

基 原	名	稱	準	基	配	合	割	合	準	保	證	(表	示)	成	分	量	施	用	方	法
--------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

鳥取縣公報 每週日發行(休日ニ當ル)昭和十四年三月廿七日 外 (昭和四年四月十五日) 第三種郵便物認可

適用作物	水	米	鹽化加里糠	過磷酸石灰	可溶一六	鱈搾粕	大豆油粕	硫酸アンモニア
	計	一〇、〇〇〇	三〇〇	五五〇	三、三五〇	一、二〇〇	二、〇〇〇	二、六〇〇
應	適用地域及土性	千代川、天神川、日野川及其他流域、第四紀層砂壤土並ニ第三紀層堆積土地方主トシテ鳥取市、岩美郡倉出、津ノ井、岩井、本庄、八頭郡私都、八東、氣高郡美穂、豊美、東伯郡北條、小鴨、西伯郡、尚徳、春日法勝寺、米子市ヲ中心トセル平坦地方						
係	保認(表示)成分量(百分中)	窒素全量	ア性窒素	可溶性	全量	全量	全量	全量
施用方	法	六、八	四、〇	六、〇	四、〇	五、二	六、三	七、五
施用方		地方中庸品種旭農林六號其他 獎勵品種普通栽培ノ場合次ノ通施肥ス ○基肥 堆厩肥 反當 三〇〇貫 (又ハ紫雲英) 反當 三〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 (一呎) (注意) 一、施肥ニ當ツテハ堆厩肥又ハ紫雲英等ノ基本自給肥料ヲ施用シ自給肥料ノ施用地方ノ肥瘠品種及栽培方法等ヲ斟酌シ必要ニ應ジテ配合肥料ノ施用量ヲ(反當ニ應ジテ)増減スルコト 二、紫雲英施用ノ際ハ相當量ノ石灰(反當一〇貫―二〇貫程度)ヲ施用スルコト 三、生育狀況ニ應ジ追肥ニ施用スルモ可ナリ追肥ノ際ハ反當一呎前後ヲ標準トシテ施用スルコト						

適用作物	水	米	鹽化加里糠	過磷酸石灰	可溶一六	鱈搾粕	大豆油粕	硫酸アンモニア
	計	一〇、〇〇〇	六五〇	四五〇	三、〇〇〇	一、一〇〇	二、八〇〇	二、〇〇〇
應	適用地域及土性	山間部花崗岩並ニ海濱部沖積層砂土砂壤土地方主トシテ八頭郡用ケ瀬、東伯郡西郷、東郷、松崎、日野郡石見、多里等ヲ中心トセル山間部地方並岩美郡福部、氣高郡正條、東伯郡由良、大誠、西伯郡弓濱部、米子市等ヲ中心トセル海濱部地方						
係	保認(表示)成分量(百分中)	窒素全量	ア性窒素	可溶性	全量	全量	全量	全量
施用方	法	六、八	四、〇	六、〇	四、〇	五、二	六、三	七、五
施用方		地方中庸品種旭農林六號其他 獎勵品種普通、栽培ノ場合次ノ通施肥ス ○基肥 堆厩肥 反當 三〇〇貫 (又ハ紫雲英) 反當 三〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 (一呎) (注意) 一、施肥ニ當ツテハ堆厩肥又ハ紫雲英等ノ基本自給肥料ヲ施用シ自給肥料ノ施用地方ノ肥瘠品種及栽培方法等ヲ斟酌シ必要ニ應ジテ配合肥料ノ施用量ヲ(反當ニ應ジテ)増減スルコト 二、紫雲英施用ノ際ハ相當量ノ石灰(反當一五貫―二〇貫程度)ヲ施用スルコト 三、生育ノ狀況ニ應ジ追肥ニ施用スルモ可ナリ追肥ノ際ハ反當一呎前後ヲ標準トシテ施用スルコト						

鳥取縣臨時配合肥料第三號		鳥取縣臨時配合肥料第五號	
基原	配合	基原	配合
硫酸アンモニア	二、三〇〇	硫酸アンモニア	三、五〇〇
大豆油粕	一、五〇〇	過磷酸石灰	三、二〇〇
錫渣	一、〇〇〇	鹽化加里	六〇〇
可溶一六	四、二〇〇	米糠	七〇〇
過磷酸石灰	五〇〇	計	一〇、〇〇〇
鹽化加里	五〇〇		
米糠	五〇〇		
計	一〇、〇〇〇		
適用作物	適用地域及土性	適用作物	適用地域及土性
水稲	大山扇ノ山火灰腐植土地方主トシテ 氣高郡鹿野、明治、東伯郡赤碕、成美 西伯郡庄内、名和、日野郡米澤、八郷 日光等ヲ中心トセル黒ボク地方	麥	河川流域平坦部砂壤土 洪積層大山灰 腐植土(黒ボク) 山間部並海濱部砂土 地方縣下一般
應	係	應	係
保證(表示)成分量(百分中)	保證(表示)成分量(百分中)	保證(表示)成分量(百分中)	保證(表示)成分量(百分中)
窒素全量 六、五 アンモニア性窒素 四、六 磷酸全量 七、七 可溶性磷酸 六、五 加里全量 三、一 水溶性磷酸 三、一	窒素全量 九、〇 アンモニア性窒素 七、一 磷酸全量 六、五 可溶性磷酸 五、〇 加里全量 三、五 水溶性加里 三、五	保證(表示)成分量(百分中)	保證(表示)成分量(百分中)
施用方法	施用方法	施用方法	施用方法
地方中庸品種旭農林六號其他 獎勵品種普通栽培ノ場合次ノ通施肥ス (基肥 堆厩肥 反當 三〇〇貫 (又ハ紫雲英) 反當 三〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 (二叭)	地方中庸品種大小稈麥、縣獎勵品種及ビ 一ル麥普通栽培ノ場合次ノ通施肥ス ○基肥 堆厩肥 反當 三〇〇貫 鳥取縣臨時配合肥料第四號 一〇貫 人糞尿 反當 一〇〇貫 ○追肥 液肥(人糞尿ノ薄メタ)反當 三〇貫 ルモノ及汚水等)當 三〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 (二叭) 木 灰 反當 一〇貫	注意 一、施肥ニ當ツテハ努メテ自給肥料ヲ施 用シ自給肥料ノ施用量地方ノ肥瘠品 種及栽培方法等ヲ斟酌シ更ニ生育狀 況ニ應ジ配合肥料ノ施用量其ノ他施 用方法ヲ適宜加減スルコト	注意 一、施肥ニ當ツテハ堆厩肥又ハ紫雲英基 本自給肥料ヲ施用シ自給肥料ノ施用 量地方ノ肥瘠品種及栽培方法等ヲ酌 酌シ必要ニ應ジ右ノ配合肥料ノ施用 量ヲ(反當)一叭ヲ限度トシテ増減ス ルコト 二、紫雲英施用ノ際ハ相當量ノ石灰(反 當)一五貫(二〇貫程度)ヲ施用スル コト 三、生育狀況ニ應ジ追肥ニ施用スルモ可 ナリ追肥ノ際ハ反當一叭前後ヲ標準 トシテ施用スルコト

鳥取縣臨時配合肥料第五號	
基原	配合
硫酸アンモニア	三、五〇〇
錫渣	二、〇〇〇
可溶一六	三、二〇〇
過磷酸石灰	六〇〇
鹽化加里	七〇〇
米糠	七〇〇
計	一〇、〇〇〇
適用作物	適用地域及土性
麥	河川流域平坦部砂壤土 洪積層大山灰 腐植土(黒ボク) 山間部並海濱部砂土 地方縣下一般
應	係
保證(表示)成分量(百分中)	保證(表示)成分量(百分中)
窒素全量 九、〇 アンモニア性窒素 七、一 磷酸全量 六、五 可溶性磷酸 五、〇 加里全量 三、五 水溶性加里 三、五	窒素全量 九、〇 アンモニア性窒素 七、一 磷酸全量 六、五 可溶性磷酸 五、〇 加里全量 三、五 水溶性加里 三、五
施用方法	施用方法
地方中庸品種大小稈麥、縣獎勵品種及ビ 一ル麥普通栽培ノ場合次ノ通施肥ス ○基肥 堆厩肥 反當 三〇〇貫 鳥取縣臨時配合肥料第四號 一〇貫 人糞尿 反當 一〇〇貫 ○追肥 液肥(人糞尿ノ薄メタ)反當 三〇貫 ルモノ及汚水等)當 三〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 (二叭) 木 灰 反當 一〇貫	地方中庸品種大小稈麥、縣獎勵品種及ビ 一ル麥普通栽培ノ場合次ノ通施肥ス ○基肥 堆厩肥 反當 三〇〇貫 鳥取縣臨時配合肥料第四號 一〇貫 人糞尿 反當 一〇〇貫 ○追肥 液肥(人糞尿ノ薄メタ)反當 三〇貫 ルモノ及汚水等)當 三〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 (二叭) 木 灰 反當 一〇貫
注意 一、施肥ニ當ツテハ努メテ自給肥料ヲ施 用シ自給肥料ノ施用量地方ノ肥瘠品 種及栽培方法等ヲ斟酌シ更ニ生育狀 況ニ應ジ配合肥料ノ施用量其ノ他施 用方法ヲ適宜加減スルコト	注意 一、施肥ニ當ツテハ努メテ自給肥料ヲ施 用シ自給肥料ノ施用量地方ノ肥瘠品 種及栽培方法等ヲ斟酌シ更ニ生育狀 況ニ應ジ配合肥料ノ施用量其ノ他施 用方法ヲ適宜加減スルコト

正 誤

本號登載鳥取縣告示第百八十七號中左ノ通正誤ス

頁	行	段	誤	正
一	二行目	1	十四號	十四種
二	六行目	三段目	水溶性加里三、五	水溶性加里三、四
三	十二行目	三段目	反當一〇メ	反當一五メ
四	五行目	三段目	磷酸全量六、〇	磷酸全量五、八
四	五行目	三段目	磷酸全量七、七	磷酸全量七、六
五	十行目	二段目	腐植土	腐植土
五	十一行目	三段目	磷酸全量六、五	磷酸全量六、三
五	十一行目	二段目	大山灰	火山灰
五	十二行目	二段目	腐植土	腐植土

昭和十四年三月廿七日印刷
昭和十四年三月廿七日發行

發行所 鳥取縣鳥取市東町
鳥取縣氣高郡大正村大字古海
印刷所 鳥取縣氣高郡大正村大字古海